１　ごみ処理の現状と課題

一般廃棄物

産業廃棄物以外の廃棄物

- 一般廃棄物
  - ごみ
    - 家庭系ごみ
      - ・普通ごみ
      - ・粗大ごみ
    - 事業系ごみ
      - ・事務所・工場等から出る紙くず、段ボール等
      - ・飲食店・食堂等から出る残飯等
      - ・小売店等から出る野菜くず、魚介類等
  - し尿・生活雑排水
  - 特別管理一般廃棄物

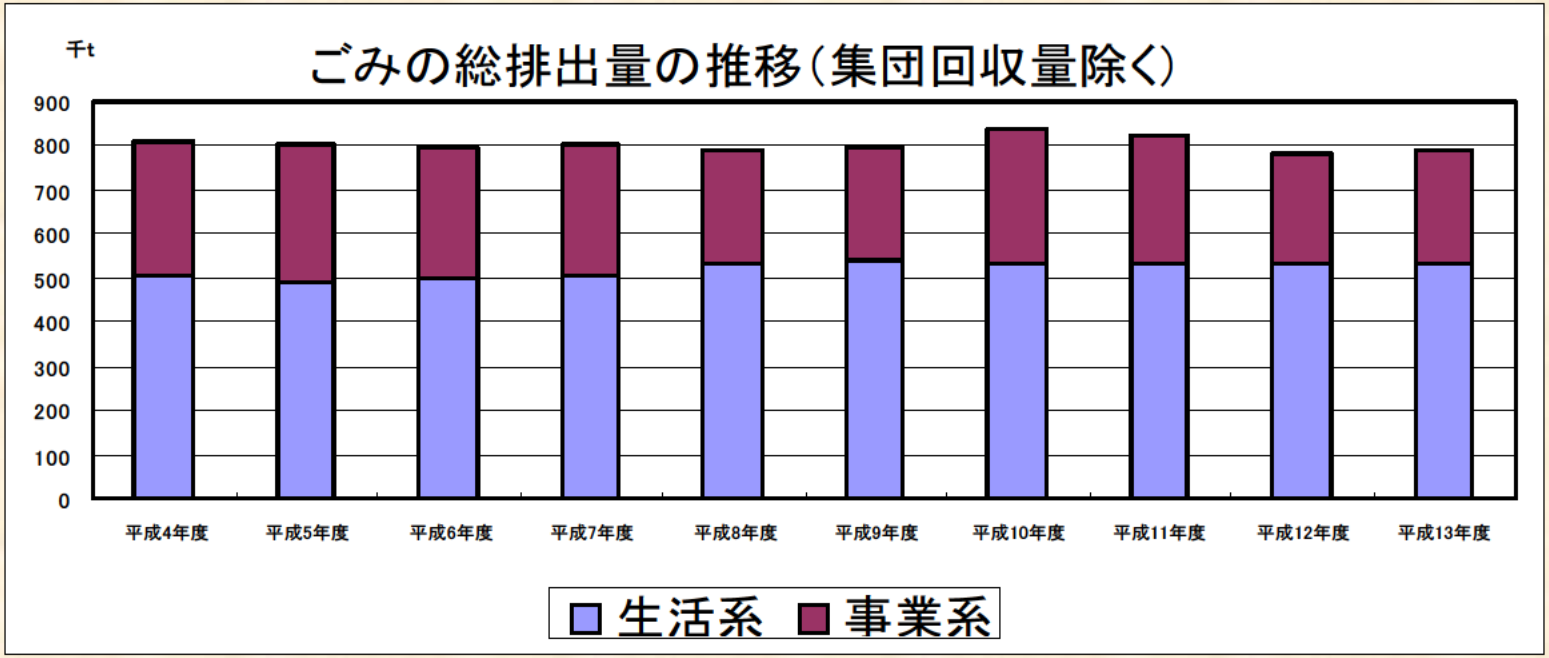
爆発性、毒性、感染性その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状のもの

現状

【一般廃棄物】

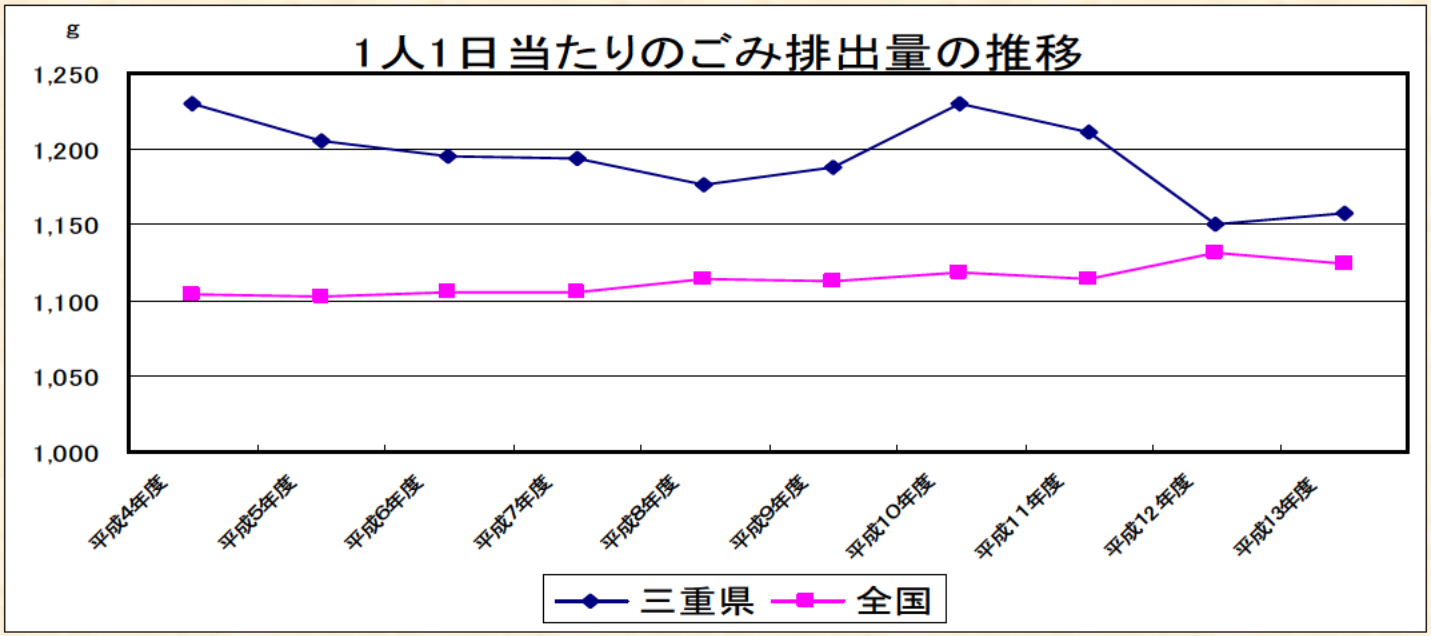
県内のごみの総排出量は、平成４年度以降若干の増減はあるものの、概ね８００千ﾄﾝ前後で推移している。

平成１３年度の県内のごみ総排出量は７８６千ﾄﾝで、うち家庭から排出される生活系ごみが５３３千ﾄﾝ（６８％）、事業系ごみが２５３千ﾄﾝ（３２％）となっており、生活系ごみの割合が増加傾向にある。

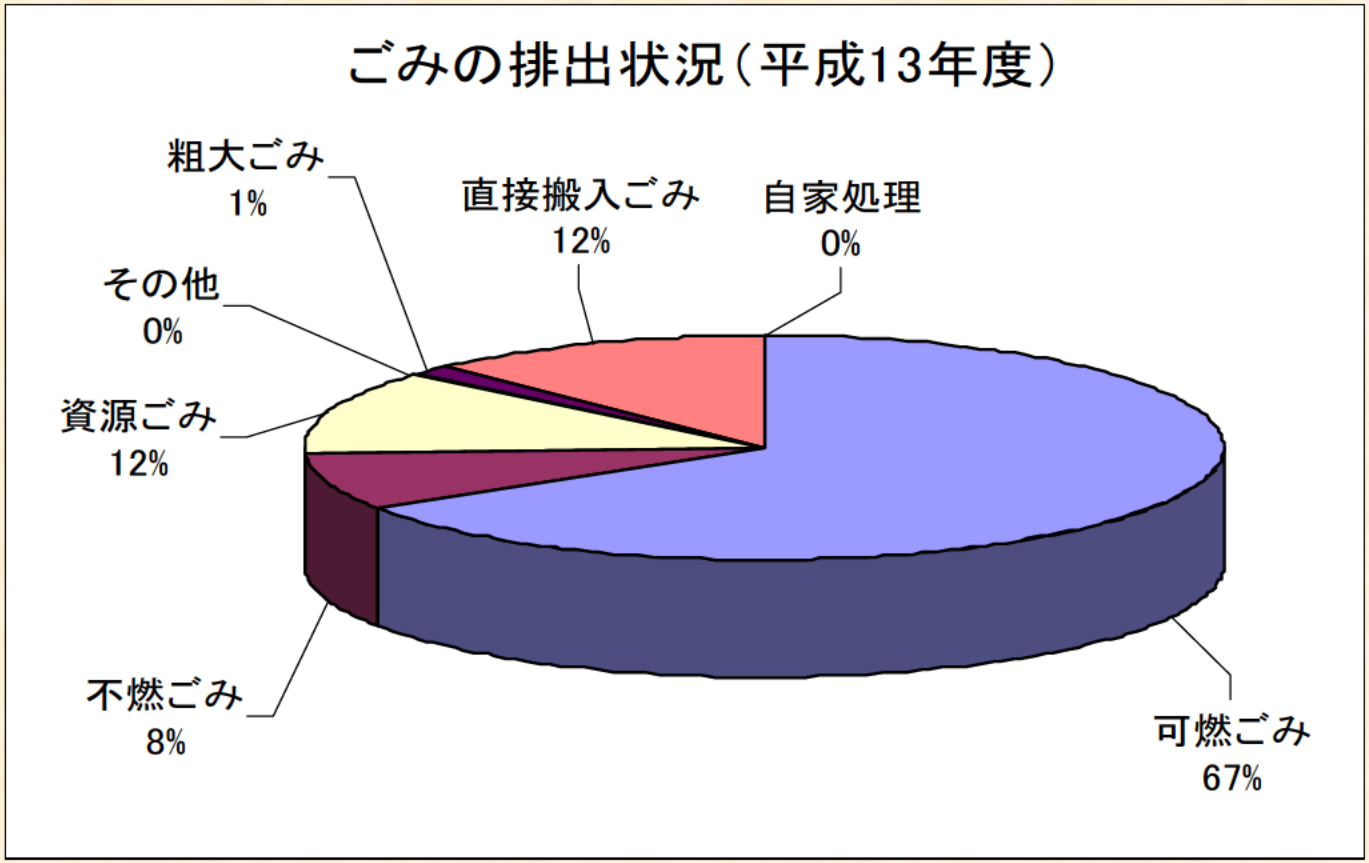


１人１日あたりのごみ排出量は、平成４年度以降増減はあるものの、概ね1,200ｇ前後で推移しており、平成１３年度の実績では1,157ｇと全国平均1,124ｇに比べて依然多い状況にある。

平成13年度における市町村ごとの１人１日あたりのごみ排出量を比較すると、最大は1,881ｇ（鳥羽市）、最小は415ｇ（勢和村）と約4.5倍の開きが見られ、市町村間で大きな格差がある。



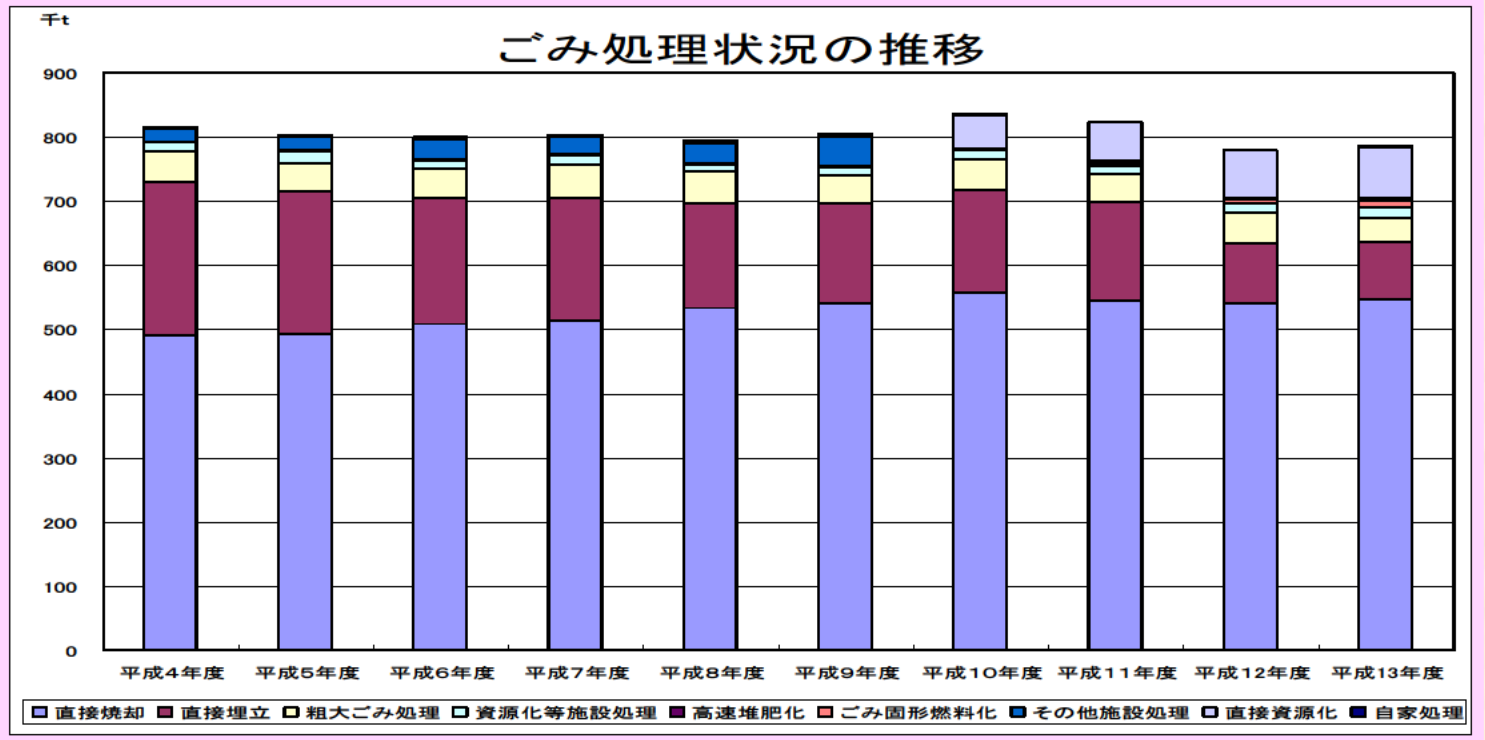
平成13年度のごみの排出状況は、可燃ごみ６７％、不燃ごみ８％、資源ごみ１２％、粗大ごみ１％、直接搬入ごみ１２％等となっています。



（２）処理の状況

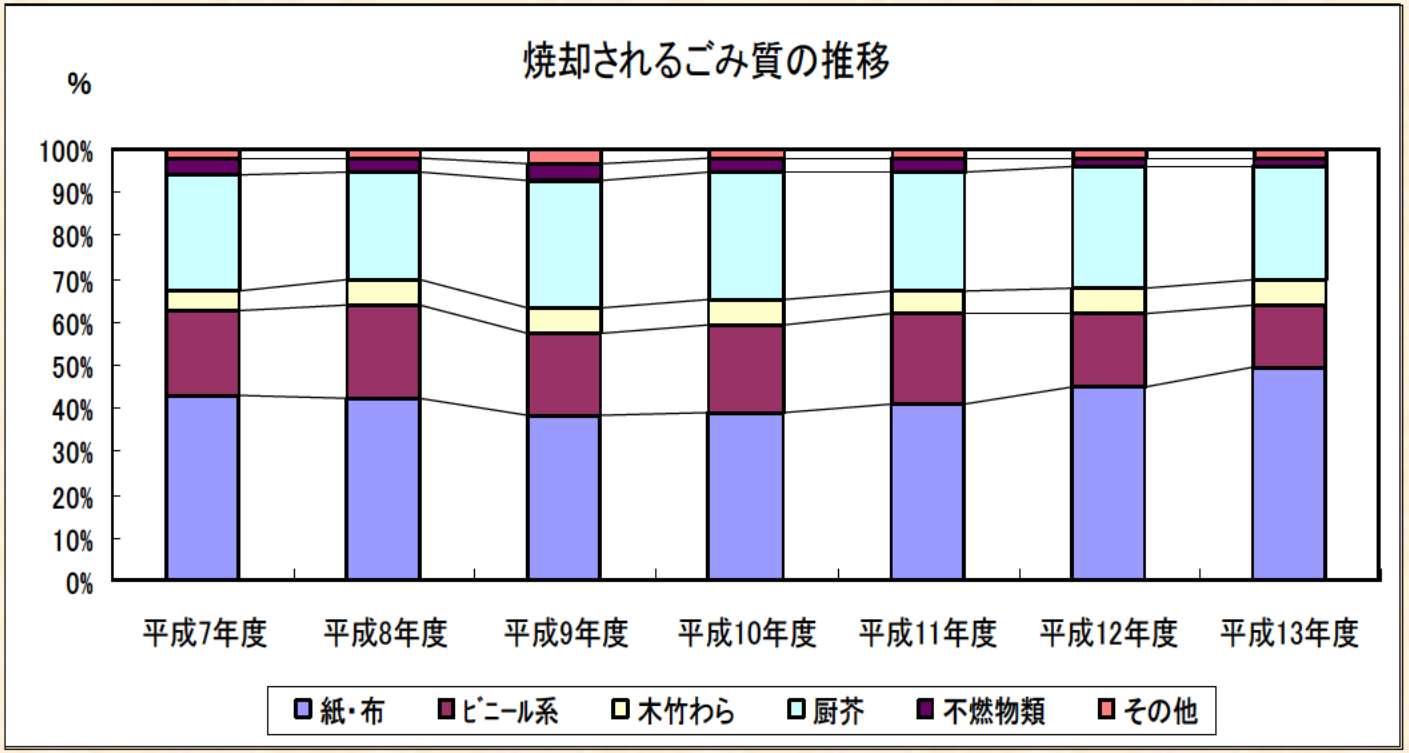
平成４年度以降のごみ処理の状況は、直接焼却及び直接資源化等されるごみの量が増加したため、直接埋立されるごみの量は年々減少傾向にある。

しかしながら、排出されたごみの約８０％は焼却又は埋立処理されており、ごみ処理が環境に与える負荷の軽減と処分に要する費用の低減が大きな課題となっている。



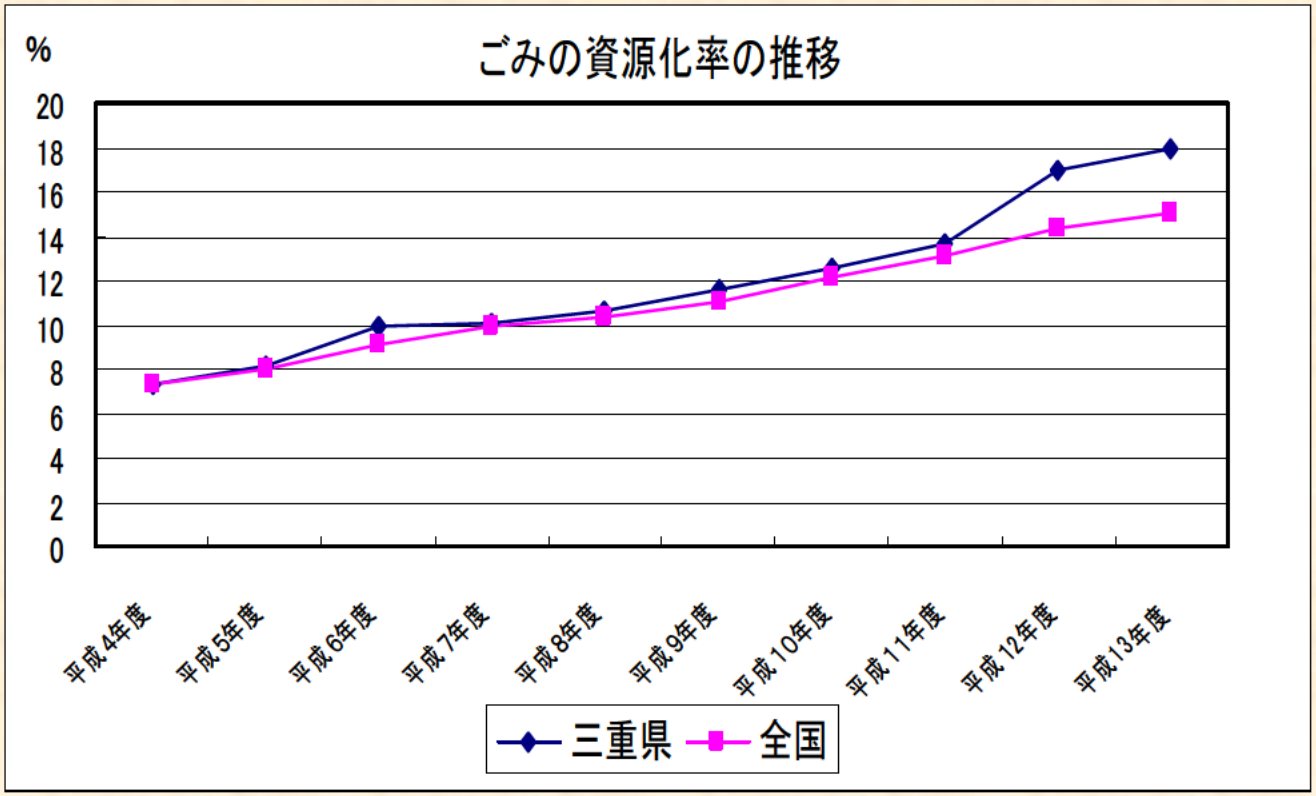
【焼却】

焼却施設で処理されるごみの質については、平成１３年度において紙・布類、厨芥類、ビニール類で全体の９割を占めている。また、近年の傾向は、容器包装リサイクル法の施行や各市町村等における生ごみの堆肥化の取り組みに伴いビニール類、厨芥類の比率は低下しているが、紙・布類は上昇傾向にある。



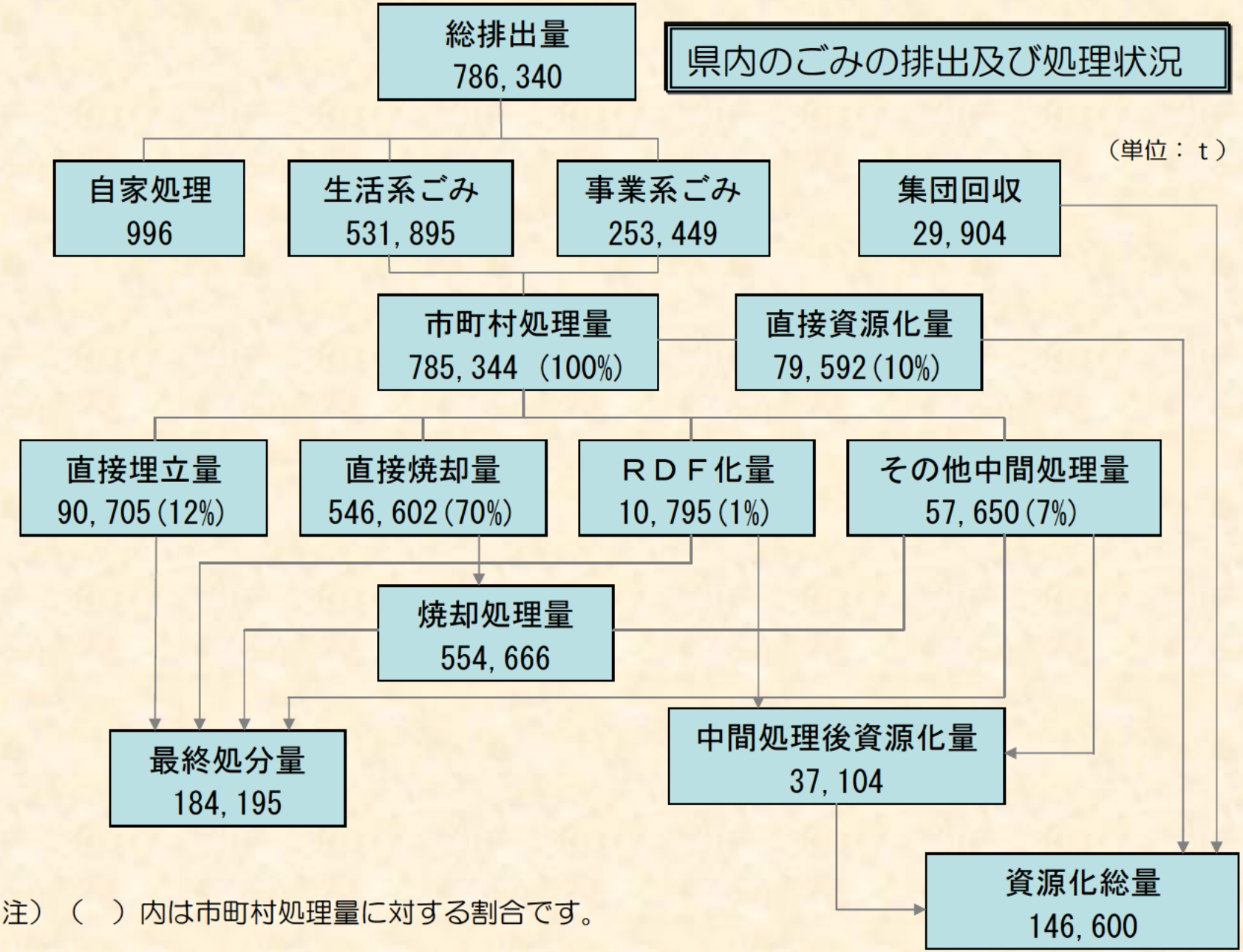
【資源化】

ごみの資源化率は、容器包装リサイクル法の施行等により、年々増加しており、平成１３年度の資源化率は１８．０％と全国平均１５．０％を上回る状況となっている。



県内のごみの排出及び処理状況

（単位：ｔ）



注）（　）内は市町村処理量に対する割合です。